

関西観光・文化振興計画における 検討課題の進め方について

1 関西国際空港魅力向上のための「到着時免税制度の導入検討」

(1) 主旨

振興計画中間案において、関西国際空港の魅力向上を戦略に位置づけているが、その方法の一つとして、到着時免税制度の導入の検討を上げている。

関西国際空港において到着時に免税品を購入することが可能となれば、利用客の利便向上、売り上げ増など空港の活性化につながるため、実現に向けての検討を行う。

(2) 内容

空港到着時エリアにも免税店の出店を可能とするよう国に要望を行う。

(出国時に購入して預け、帰国時にそれを受け取るという仕組みも考えられる。)

(3) 課題

① 世界税関機構の「免税販売店に関する勧告」を日本が受諾(1972年)

【勧告内容：免税店の販売は海路又は空路による海外向け渡航者(出国者)に限る。】

② 関税法基本通達により、保税販売の対象者は出国者とされ、物品の引き渡しは、原則として出国者に直接手渡す方法による。

(4) 今後のスケジュール

平成23年10月 関西国際空港(株)へのヒアリング

11月 要望内容の整理

24年 2月 関西観光・文化振興計画最終案への盛り込み

(参 考)

海外の状況

世界税関機構には世界で177カ国が加盟しているが、到着時免税を導入している国は58カ国と言われている。

① 空港において導入している主な国

中国、タイ、フィリピン、シンガポール、香港、オーストラリア、ニュージーランド、アイスランド、ノルウェー、セルビア、ジブラルタル、トルコ、スイス、メキシコ、パナマ、バルバドス、ペルー、ブラジル、ロシア、エジプト、アラブ首長国連邦、南アフリカ共和国など。

米国、EU諸国は導入していない。

② スイス連邦の状況

2011年6月から、チューリッヒなど5空港で到着免税店を導入。

連邦議会は過去に導入を否決していたが、2010年3月承認。

2 KANSAI 統合型リゾート（IR）【カジノを含む。】の検討

(1) ワーキングの目的

振興計画中間案の戦略として、関西を一つのエリアとする発想の「KANSAI MICE」の実現を目指すこととしており、その一つとして、統合型リゾートの検討を上げている。

連合として、MICEの取組や統合型リゾートにどう対応していくのかを専門家も含めたワーキングを立ち上げ、検討を行い、結論を出していくこととする。

(2) ワーキングメンバー（案）

- 【策定委員】 橋爪紳也 大阪府立大学 21世紀科学研究機構教授
- 【産業観光分野】 (選定)
- 【セーフティネット対策分野】 (選定)
- 【経済団体】 関西経済連合会ほか
- 【連合構成府県】 7府県各参与

(3) 具体的な検討内容

- 統合型リゾートのあり方
 - ・海外の統合型リゾートの実例
 - ・既存施設の活用（新規建設のみではなく）
 - ・各施設間のMICE連携方法
 - ・カジノについて

(4) 今後のスケジュール

- 23年10月中旬 IRワーキング
- 10月下旬 第3回策定委員会
- 11月上旬 IRワーキング
- 12月中旬 第4回策定委員会
- 24年1月下旬 連合委員会への最終案報告

(参考)

国における統合型リゾート導入の動き

① 国際観光産業振興議員連盟

(特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律案発表 2011.8.25)

概要：同法案によると、国は地方自治体の申請に基づき、カジノ区域を指定。民間事業者に対する認可や犯罪監視を行う「カジノ管理委員会」を内閣府の外局として設置する。また、カジノで得られた収益の一部は国や自治体が納付金として徴収し、東日本大震災の復興財源にも充てる。

② 国土交通省成長戦略会議報告書（カジノを含めた統合型リゾートの検討）

③ 行政刷新会議（民間事業者によるカジノ運営の解禁）の検討

3 「古典の日」の推進について

(1) 主旨

振興計画中間案において、『関西文化の日に親しむ機会の拡充』を戦略の一つに位置づけており、その方法の一つとして、古典の日を普及啓発し、日本文化のふるさと関西の魅力を世界に発信することとしている。

古典の日については、平成 20 年 11 月に、天皇皇后両陛下の御臨席の下開催の「源氏物語千年紀記念式典」で提唱した「古典の日」宣言を継承発展させ、古典に親しみ、次世代へつないでいく取組を進めるため法制化を推進する。

(2) 内容

- 日本の伝統文化や日本人の心を次世代に継承していくため、古典の普及及び古典を活用した文化の振興についての法律の制定。
- 国における積極的な振興の取組を求めるとともに、特に、国民が広く、人間の叡智の結晶である古典に触れ、親しむ日として、11 月 1 日を「古典の日」と定めるよう提案。
※世界に誇る古典文学である『源氏物語』の存在が記録上確認できる最も古い日付が寛弘5(1008)年11月1日である

(3) 課題

- 「古典の日」の法制化に向けた全国規模での活動の推進

(4) 今後のスケジュール

- 国への提案(国会議員、文化庁)
- 「古典の日推進議員連盟(仮称)」の設置への働きかけ

(参考)

これまでの取組

- 「古典の日推進委員会」による活動の展開(23 年度)
 - ・ 古典の日推進フォーラム 2011 の開催(毎年 11 月 1 日に実施)
 - ・ 「古典の日」法制化等に向けた普及・署名活動
 - ①古典の日制定推進イベント in 東京(11 月 28 日実施)
瀬戸内寂聴&新井満チャリティ公演会
 - ②署名活動目標 10 万人(H23/9 現在 約 85,000 名)
 - ③古典作品の全国朗読コンテスト等の実施
 - ④京都府・市等による政府提案(要望)の継続実施
- 古典の日推進に向けた次世代育成の取組(京都府)
 - ①教育委員会との連携のもと、高校生等を対象として、古典に親しみ学んでもらうための事業を実施(H23 年度 11 件採択)
 - ②小・中・高校生による古典文学朗読・暗唱大会の実施

古典の普及及び振興に関する法律の制定について（案）

日本の伝統文化や日本人の心を次世代に継承していくため、古典の普及及び古典を活用した文化の振興についての法律を制定し、国において積極的な振興に取り組むとともに、特に、国民が広く、人間の叡智の結晶である古典に触れ、親しむ日として、11月1日を「古典の日」と定めるよう提案します。

平成23年 月 日

関西広域連合

連合長	兵庫県知事	井戸敏三
副連合長	和歌山県知事	仁坂吉伸
委員	滋賀県知事	嘉田由紀子
委員	京都府知事	山田啓二
委員	大阪府知事	橋下徹
委員	鳥取県知事	平井伸治
委員	徳島県知事	飯泉嘉門